

第3回 第三者評価委員会 会議録

1 日時等について

日 時	平成 27 年 6 月 30 日 (火) 午前 10 時 00 分
場 所	教育委員会室
出席者	
評 価 委 員 長	尾 木 和 英
評 価 委 員	佐 藤 晴 雄
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岩 佐 一 郎
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長事務取扱)	高 橋 宏 幸
学 務 課 長	須 藤 浩 司
指 導 室 長	月 田 行 俊
生涯学習課長	岡 本 香 織
スポーツ振興課長	佐 久 間 英 樹
ひきふね図書館長	石 原 恵 美
小学校長会長 (代理出席 第三吾嬬小学校長)	金 谷 政 一
中学校長会長	田 谷 至 克
小学校PTA協議会長	泉 和 典
中学校PTA連合会長	佐 瀬 一 夫

2 議題

- (1) 社会教育分野における事業の点検・評価について
すみだ教育指針「施策の方向2」

3 会議の概要

庶務課長 お忙しい中ご出席を頂きまして誠に有り難うございます。本日は平成27年度第3回墨田区教育委員会第三者評価委員会となります。この会議は公開ですが、今のところ傍聴人はおりません。よろしく願いいたします。それでは尾木委員長、議事進行をお願いいたします。

尾木評価委員長 では、改めましてよろしくお願いいたします。本日の議事は、「社会教育分野における事業（すみだ教育指針「施策の方向2」）の点検・評価について」です。お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。それでは、「(1) 家庭の教育力向上と活用への支援」から、ご説明をお願いします。

(次の事業について、すみだ教育研究所長及び生涯学習課長が説明する。)

目標1 家庭教育を支援します

(1) 家庭の教育力向上と活用への支援

- ・ 家庭教育冊子の発行
- ・ 家庭と地域の教育力の充実
- ・ 教育相談

尾木評価委員長 ありがとうございます。そこまでが目標1となります。それでは、本日参加しています校長会長、PTA会長から、ご発言ございますか。特に家庭教育学級補助金の事業について小中学校の保護者から申込みが少ないということが課題として記述がありますが、こういった課題に対する改善策等、何かあればご発言いただければと思います。それがこれからの教育委員会の施策展開につながると思います。

中学校PTA連合会長 子育てに関連するとどうしても幼稚園、保育園が中心になるイメージがありまして、こういうものがあるのであれば積極的に利用したいと思いました。

尾木評価委員長 27年度以降は区報等で周知を図るとありますが、26年度まではどのような形で周知を図っていたのですか。

生涯学習課長 主に区報です。これは今年度からの新規ということではなく、従前から区報への掲載や関係団体への案内を行っていました。PTAの方々が集まった場での説明はしていません。

尾木評価委員長 年度末には、予算は完全に執行しているのですか。

生涯学習課長 予定していたより申請が少ないので、余裕がある状況です。

尾木評価委員長 一般的な傾向として、年々、家庭教育が課題を抱えるようになってきています。そういう意味では、「家庭と地域の教育力の充実」が重要ですので、課題や27年度以降の取組については、改善、充実を図っていければいいと思います。例えば子育て通信については、内容を乳幼児

教育の段階や小中学校の段階に特集を組むなどの工夫をしたり、配布方法を工夫したりして充実していけばいいなと思います。それから「教育相談」については、23区において教育センターにあるところが多いですが、墨田区においては生涯学習課の事業ということで一つの特色だと思います。校長先生方にお尋ねしますが、その点については何か課題と感じられていることはございますか。

中学校長会長 最近の顕著な特徴として家庭の問題があります。家庭が複雑化していて、学校が立入れない状況がある中で、スクールソーシャルワーカーや児童相談所、子育て支援総合センターとも相談して、ケース会議を通じて、保護者の教育力の立て直しを図っていただいています。すぐ解決するものもありますが、継続するものも多いと思います。不登校の問題は、学校だけが抱えている問題ではなく、行政側でも一緒に考え、アプローチしていくことについては大変助かっています。

佐藤評価委員 「家庭教育啓発冊子の発行」について、小学生すたーとブックのホームページからのダウンロード件数はわかりますか。

すみだ教育研究所長 その集計はとっていません。

佐藤評価委員 結構読まれているのですか。

すみだ教育研究所長 就学前の5歳児対象に配布していますので、その年代以降は使用している方はそれほどいないと思います。

佐藤評価委員 この延長で一部の学校で取組まれているところがあるのですが、その学校のガイドブックを作成しています。内容は校舎の配置等、何から何まで書いています。ただ、予算がかかるので、なかなかできないところではあります。したがって、学校が任意で作成したり、区が何らかの援助をすると良いかもしれません。そういった取組をすることにより、保護者の方々が学校に対して当事者意識を持つようになります。具体的な学校の姿が保護者にわかることも有効な手段なのではないかと思います。家庭教育の充実を図る策を検討するうえでは、そういったことも一つの策になり得ると思います。それから「家庭と地域の教育力の充実」のところで家庭教育学級補助金については、横浜市の社会教員をやっているときに活用率が悪いというお話がありました。その理由は、予算の使い勝手が悪く、面倒だからということです。金額が高いうちは良かったのですが、それが安くなり、なおかつ使い勝手が悪いとなると利用されなくなりました。墨田区の場合はどうですか。

生涯学習課長 基本的には、講師の謝礼を補助する内容となっています。金額的にはそれほど高くありません。したがって、補助金申請の手間を考えると、面倒だと思われるかもしれません。

佐藤評価委員 一括して補助する場合はその中でやり繰りして色々な使い方ができたのですが、それは昔の話で、今は状況が大分違ってきていると思います。自主的な申請に任せるということは良いのですが、小中学校の保護者からの申請が少ないという課題があるので、工夫が必要かなと思いました。元々中学校からの申請は少ないですが、情報提供が不足していたかもしれません。それからわくわく

親子サイエンス教室については、男性の保護者を集めるための工夫は非常に良いです。教育論においてあまり出てこない父親を引っ張るには、男性保護者が好きそうなテーマを取り上げることはとても有効だと思います。保護者48名のうち、男性が何名ぐらい参加したのですか。

生涯学習課長 約半分は男性です。子育てをテーマにしていた時は、男性の参加者はほとんど見られませんでした。サイエンスをテーマにしたら、参加者も増え、開催回数も1回から3回に拡充しました。

佐藤評価委員 サイエンスや工作などにすると、比較的参加していただけるのかなと思います。非常に良い取組だと思います。

尾木評価委員長 ありがとうございます。それでは続いて「地域の教育力向上と活用への支援」から説明をお願いします。

(次の事業について、すみだ教育研究所長及び生涯学習課長が説明する。)

目標2 学校と地域を結ぶしくみをつくります

(1) 地域の教育力向上と活用への支援

- ・ すみだSSTステップアップ講座の実施
- ・ リーダー育成事業
- ・ 放課後すみだ塾及び放課後学習クラブの実施
- ・ すみだチャレンジ教室の実施
- ・ 放課後子ども教室
- ・ 地域体験活動
- ・ 学校支援ネットワーク事業
- ・ NPOすみだ学習ガーデンとの連携

尾木評価委員長 ありがとうございます。全体を通して、教育に関する事業の中でどの事業が墨田区区民行政評価において対象となっているのか、最初にお示しいただければと思います。そこでの結果も踏まえたうえで、審議された方が良いと思いますので、よろしくをお願いします。それでは、ただいまの件について、ご意見等ございますか。

第三吾嬭小学校長 「すみだSSTステップアップ講座の実施」について、本校からも教員を派遣して、算数の教え方を指導しました。非常に参加人数も多く、熱心な方々であったと伺っています。

尾木評価委員長 そうすると対象は、教員も含め様々な方が対象なのですか。

すみだ教育研究所長 対象は、教員を志望する学生や地域で教員資格を持っている方々です。その中で、教員をお願いして指導していただいている状況です。

尾木評価委員長 東京都では、教師を志す学生を対象にした事業を実施していますよね。

指導室長 ストレートマスターです。

尾木評価委員長 それと似たような形ですよ。

指導室長 ストレートマスターの場合は、学校で模擬授業等を行い、合格するとその場ですぐその学校に配置される形となっています。したがって、完全に教員になるのが前提となっています。SSTの場合は、そこまでではありません。ただ、教員を志望する方々に研修を受けていただき、補助的な役割で協力していただくようになっています。

すみだ教育研究所長 今回のテーマは、「子どもをやる気にさせるコーチング」ということで、教育の仕方よりは心構えを主とした内容となっています。教員の育成ではなく、あくまで手伝っていただいている地域の方々に対して、指導を行ううえでの対応方法についてアドバイスを行っているものがございます。

尾木評価委員長 他の件について、何かご発言等ございますか。私が一つお尋ねしたいのは、学校支援ネットワーク事業についてです。今年からNPO法人化されていますが、従来と比較して課題や成果はありますか。

すみだ教育研究所長 今まで校長を経験された方が中心となり、地域の人材に働き掛けを行い、200を超える企業の登録をさせてきました。その方々が退職の年齢を迎え、その時にNPO法人化して、学校の校長先生にもお声掛けし人数を増やし、体制を強化しようという動きとなっています。そういう意味では、色々なところに働きかけができるようになりました。したがって、強化されたと考えています。

尾木評価委員長 ありがとうございます。佐藤先生、何かご発言ございますか。

尾木評価委員長 はい。「すみだSSTステップアップ講座の実施」について、そういった研修を区が実施することに意味があると思います。ただ、参加者が少ないという状況です。これは内容にもよると思います。あるいは、日数を増やして、認証制度を設けるとまた違う状況になるかと思われます。そういったお墨付きがあると、意識、行動共に変わるかなと思います。「リーダー育成事業」について、昔ジュニア・リーダー研修会の担当をしたことがあるのですが、地域行事に数十件と派遣することから下手すると人材派遣業みたいになってしまいます。したがって、青少年育成委員等との結びつきがあった方が良くと思います。「放課後すみだ塾及び放課後学習クラブの実施」について、学校の実施率はどのくらいですか。

すみだ教育研究所長 これらの実施にあたっては、人件費等の補助金を出す場合があるのですが、それによらず独自で行っている学校もあります。学校によって実施日数は異なりますが、週に1回から

3回くらい実施していると認識しています。放課後学習を実施していくうえで自校でまかなえない部分について人材を派遣したり、補助金を出したりしています。

佐藤評価委員 一つ心配なことは、学校の状況、先生の意欲等により学校間で格差が生じることです。したがって、今後は格差を解消するための策についても検討する必要があります。

中学校長会 中学校の場合は、どうしても部活動指導になってしまいます。そういった事が欠かせないということで、外部講師を派遣していただき、大変ありがたく活用させていただいています。

尾木評価委員長 ありがとうございます。では続いて目標3の「文化・芸術活動と歴史・文化理解の推進」からご説明をお願いします。

(次の事業について、生涯学習課長及びスポーツ振興課長が説明する。)

目標3 文化やスポーツなど地域での活動の機会を広げます

(1) 文化・芸術活動と歴史・文化理解の推進

- ・ すみだ地域学セミナーの開催
- ・ すみだ郷土文化資料館の運営
- ・ 文化財の保存・普及

(2) スポーツ活動の推進

- ・ 墨田区スポーツ推進計画の策定
- ・ 総合型地域スポーツクラブ事業
- ・ 陸上競技場等整備事業
- ・ 総合体育館管理運営(PFI)事業

尾木評価委員長 ありがとうございます。PTA会長の方々、地域住民でもありますので、地域住民のお立場から何かご発言はございますか。

小学校PTA協議会会長 「陸上競技場等整備事業」について、陸上競技場を早く造っていただければと思います。中学生の連合陸上、運動会等の実施が可能となり、墨田区内において陸上競技場を利用した事業の展開ができ、そこに地域の方々も参加しやすくなると思います。それから300mトラックということで区長が仰っていたので、その点については嬉しいです。

中学校PTA連合会長 「陸上競技場等整備事業」について、吾孺第三中学校と曳舟中学校が統合して文花中学校となり、当時陸上競技場整備の話があったことから、狭い校舎である吾孺第三中学校の校舎を文花中学校の校舎として使用しているのですが、大学誘致の方向に転換したのであれば、広い校舎である曳舟中学校の校舎を使用した方が良かったという声未だに地域に根強くあります。陸上競技場を旧鐘淵中跡地を使用することは周知の事実なのですが、大学誘致の方を実現するかどうか別にして、早く進めていただければと思います。それは、大学誘致の場所としての旧西吾孺小学校と旧曳舟中学校は、廃墟のような状態となっているからです。以前は文花中学校でもその校庭等を使用し

ていたのですが、ここ2年くらいは使用不可となっています。スペースはあるのですが、誰も手入れをしないので、景観も悪くなるし、防犯上の問題も出てきて心配です。どのような結果になろうとも、早く対応してほしいなど地域住民としての率直な意見です。

尾木評価委員長 これは、区全体の行政とも関わる部分もあり、教育委員会の判断だけで動けない部分もありますが、特に大学誘致に関する委員会には次長さんも出席されるのですか。

教育委員会事務局次長 ちょっとそこは分かりませんが、区長も大学誘致を進めるという方針ですので、早いうちに結果を出せるよう努力したいと思っております。

尾木評価委員長 よろしくお願ひします。他の点で何かございますか。

佐藤評価委員 「すみだ地域学セミナー」については、地域の特色を出して実施していることに大いなる意義があるなど感じています。ただ、NPO法人すみだ学習ガーデンに委託しているということで、負担は大きくなっているのですか。色々な事業委託を受けて、受けきれないような状況はありますか。

生涯学習課長 法人の規模を考えると、事業の量は多いかもしれません。

佐藤評価委員 若干事業がマンネリ化しがちかもしれません。よそのNPOもそうですが、当初の人数のままであまり新しい人が入ってこない傾向があります。あとは年齢層が高くなってしまいます。そういう状況の中で、何かの機会に社会教育主事の方を入れたりすることで、活性化の一つの鍵になるのかなと思います。それから「すみだ郷土文化資料館の運営」と「文化財の保存・普及」の関連付けはありますか。

生涯学習課長 関連付けはしています。郷土文化資料館の企画展とタイアップして、講義を受けた後にフィールドワークとして実際にその文化財を見に行ったりしています。あとは史跡めぐりをした後に郷土文化資料館の活用もしています。少しずつ関連させた取組も実施しています。

佐藤評価委員 はい、わかりました。それから「墨田区スポーツ推進計画の策定」については、基本となるのでぜひ頑張ってくださいと思います。あとは「総合型地域スポーツクラブ事業」については、どこもそうですが増やそうと思っても増やせず、現状維持するので精一杯の状況です。その中で、運営安定化の一助のために事業を委託することは、一つの有効な策だと思いました。これは、金額的な規模は大きいのですか。

スポーツ振興課長 二つ合わせて700万円、800万円規模だと思います。直接実施をしなくていいので、人員の削減にもつながり、お互い良かったのかなと思います。

佐藤評価委員 これらの団体も若干余裕が出てきたのではないですか。

スポーツ振興課長 余裕が出てきたと思います。今後より運営努力をしていただければ、幅が出てくるのかなと思います。

佐藤評価委員 あるいは場合によっては、事業が増えるとかも考えられますよね。

スポーツ振興課長 今まで現状維持で精一杯でしたので、そういったことも検討していきたいと考えています。

佐藤評価委員 そういう意味で一つの工夫なのかなと思いました。

尾木評価委員長 すみだ学習ガーデンにしても総合体育館にしても事業委託をしているので、運営主体は向こうとなり、事務局の方々からしては計画を立てるのが難しいと思いますが、ぜひ可能な範囲で学校教育においても活用がしやすいような取組をしていただければと思います。それは墨田区の小中学校の校庭はどうしても狭く、部活動においても施設利用について難しい点があるので、ぜひ活用できるようにご配慮いただければと思います。よろしくお願いします。それでは目標4の「大学等との教育連携」からご説明をお願いします。

(次の事業について、すみだ教育研究所長、生涯学習課長及びひきふね図書館長が説明する。)

目標4 大学や図書館等多くの教育資源と連携し、学ぶ機会を広げます

- (1) 教育機関等との連携による学習・指導支援の推進
 - ・ 大学等との教育連携
 - ・ 学生ボランティア事業
 - ・ すみだ生涯学習ネットワークの構築
- (2) 区立施設等の連携・活用による学びの推進
 - ・ 生涯学習センターの運営
 - ・ ひきふね図書館の運営

尾木評価委員長 ありがとうございます。今の件について、何かご発言ありますでしょうか。「大学等との教育連携」と「学生ボランティア事業」に関連して、大学の先生にも自己点検・評価がございまして、こういった事業に関わることで評価が高くなります。学生ボランティアでは、学生がボランティアとして参加することを単位化する大学もあります。学生が積極的に小中学校や教育委員会の取組に関わる状況があります。そういうことについて、仮に通学時間が1時間半以内の大学にアンケート調査を実施して、大学の実態把握をすると良いと思っているのですが、そういった調査はしたことはありますか。

すみだ教育研究所長 おそらく無いと思います。大学を回って、呼びかけをするのも3年くらいはしていないので、そういった状況の中でアンケートを組込めるかどうか検討させていただきたいと思います。

尾木評価委員長 大学によって組織は異なりますが、教務課か学生課あたりが担当していると思います。

佐藤評価委員 私の大学では、就職センターというところで担当しています。

尾木評価委員長 そういったところに問い合わせ、簡単なアンケート調査を実施し、実態把握をし、この事業展開に役立てられたら良いと思います。他にお気づきの点はございますか。

佐藤評価委員 「学生ボランティア事業」について、私の大学では駅に向かう途中に小学校があり、そこの取組が盛んです。逆に駅の反対側にある学校には行かないです。10分歩くとところにあるとまた行かなくなってしまう。他区のボランティアをやっている学生は、自宅から大学までの通学路の途中であれば行きますが、ちょっと外れると行かなくなります。一番元気な大学2、3年生は、授業が多く参加する時間がとれません。大学4年生は、就職活動が忙しくて時間がとれません。その辺の難しさがあると思います。ただ、これは外発的動機ですが、ボランティアに参加された学生に対し、教育委員会から何らかの認証みたいなものを出すと良いかもしれません。

すみだ教育研究所長 証明書みたいなものですか。

佐藤評価委員 そういったものですね。教育的かどうかわかりませんが、そういうものがあると学生もより頑張ろうという意欲につながるのではないかと思います。それは内発的動機ではなく外発的動機ですが、それをいかに内発的動機にするのかが一つの課題になろうかと思います。最後に「ひきふね図書館の運営」については、非常に活用率が良いということで、大変結構なことだと思います。ただ、これから高齢者層が増え、読書や図書に関し動機が弱い方も来ることが想定されるので、その辺の対応も課題となろうかと思います。イベントの開催回数を大変多いと感じました。今後活用の仕方を工夫していただくと、ますます良い図書館になるのかなと思いました。

尾木評価委員長 図書館に関連して、数週間前のある区で図書館の職員と学校の先生がチームティーチングを組み、授業公開を行っていました。ブックトークについて、学校の先生よりは図書館の職員の方が図書に関する知識は豊富なので、それを授業の中でうまく活かされていました。ひきふね図書館はスタートして何年目になるのですか。

ひきふね図書館長 3年目です。

尾木評価委員長 学校教育では授業指導という言葉で図書館とか情報活用に関する学習内容があるのですが、先生方が若干その点について経験が不足しているので、図書館の職員が学校に対し利用指導とかブックトーク、最近ではアニメーションを行っているところもあります。そういった学校教育にも力を貸していけるように運営していただければありがたいと思います。

ひきふね図書館長 先日も小学生向けの情報リテラシー講座というイベントを行いました。その時、利用者の方から「こんなに素晴らしい内容は、ぜひ小学校でもやってほしい。」というお話がありました。

尾木評価委員長 少し大変なことです。ぜひそういったことを視野に入れて検討していただきますようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。以上で、本日の議題は終了しました。ご協力いただきまして、大変内容のある会議となりました。事務局から何か連絡はございますか。

(事務局から次回の会議日程の確認を行う。)

尾木評価委員長 ありがとうございました。それではここまでで議事を閉会させていただきます。